



知る、考える、進めるために。

除染情報プラザ

福島県



環境省

くるまざカフェ
企画

ふくしま みち さがし

未来へ向かって
いま 私たちにできること。



ふくしま みちさがし

step2 くるまざカフェワークショップ

各地で活動する
方々が経験を紹
介し課題を共有し、
来場者も参加した
ワークショップで、
現地を訪ねる体験
プログラム「ふく
しまみちさがし」
の試行が提案され
ました。



step1 くるまざカフェの提案

福島で地域再生
活動に取り組むリ
ダーたちが意見交
換し、さらに関心
のある方々が参加
できる仕組みとし
てポジットイブカ
フェを発展し「く
るまざカフェ」が
生まれました。



これまでのくるまざカフェ

震災から6年が経過する福島。
除染等を経て、各地で日常を取り戻す取組みが
進められてきました。

くるまざカフェはこうした取組みを知り、
確かめてきました。

昨年11月に体験プログラムを実施し、
様々な場所を訪ねました。

これから進んでいく“みち”を
一緒に考えていきたいと思っています。

step3

ふくしまみちさがし 体験プログラムの実施

11月に、現地を訪ねる
2つのプログラムを実施しました。

☆浜通りとあぶくまの

森林里山の今を知る（1泊2日）

☆食の安全対策とふくしまの

美味しいものさがし（日帰り）



≪ワークショップ≫

森の手入れ、薪づくり、牛乳づくり、
学校や病院、農家の取組みなどの紹介

開催日…平成28年7月31日

会場…コラッセふくしま（福島市）

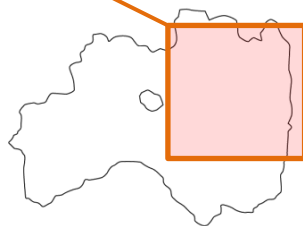
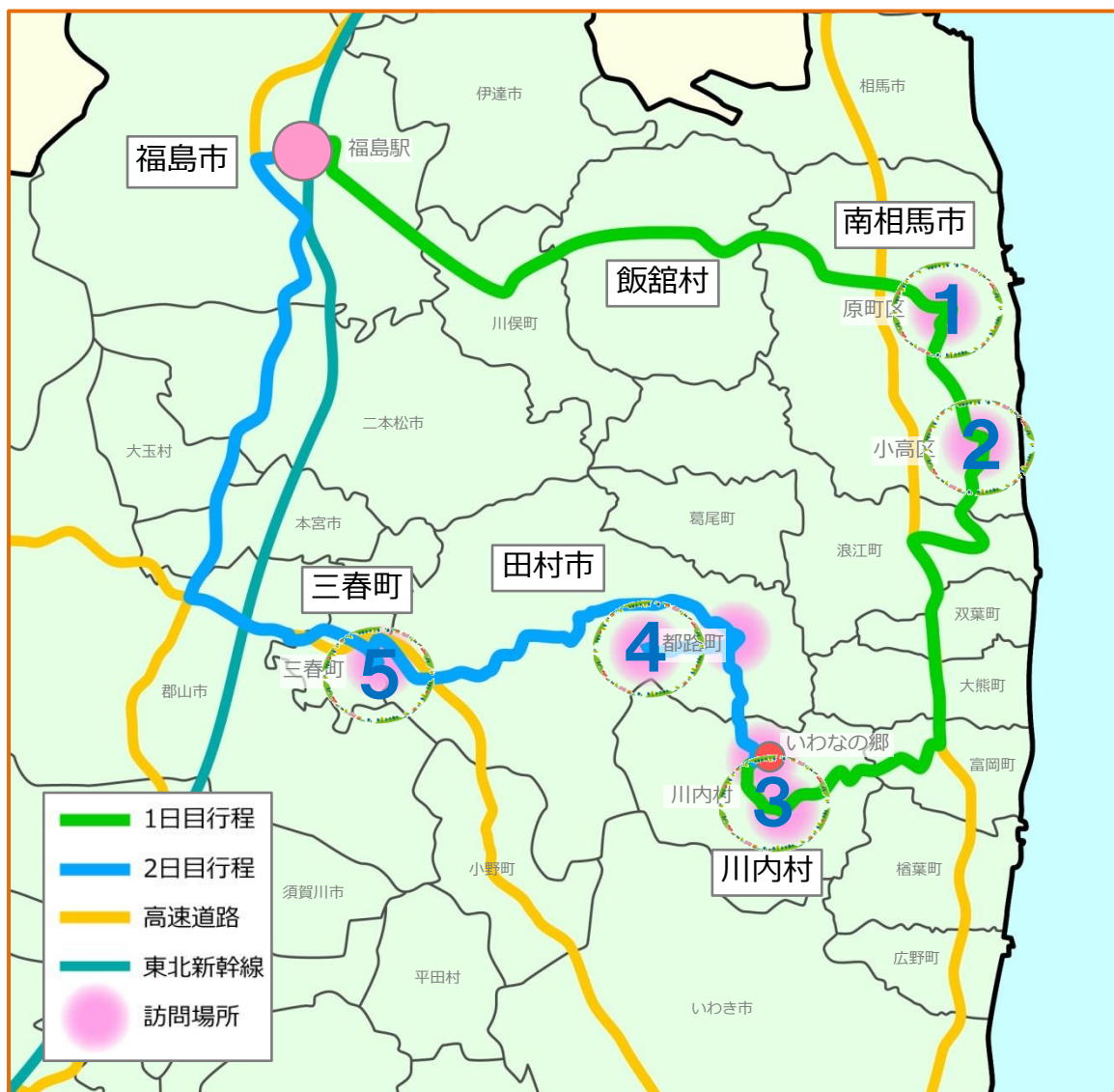


体験プログラム

浜通りとあぶくまの 森林里山のいまを知る

▶ 実施日：平成28年11月5日（土）6日（日）

▶ 参加者：11名+ナビゲーター・越智小枝さん



ふくしまみちさがし
ルート

行程 ●1日目

福島駅西口バスターミナル出発 →

1 南相馬市

菜の花畑/ソーラーヴィレッジ



菜種の活用と半農半電による地域再生の取組みの現場訪問。

2 南相馬市

双葉屋旅館



避難指示解除（平成28年7月）とともに営業再開。昼食。

2 南相馬市

おだかぷらっとほーむ



避難指示解除後の小高区散策。

3 川内村

共同復興推進センター



村の生活と放射線量測定等について伺う。

3 川内村

いわなの郷



川内村の新そばを使ったそば打ち体験。



●2日目

川内村出発 →

4 田村市

グリーンパーク都路



森の手入れの現場を見学。

4 田村市

ふくしま中央森林組合



製材所と放射線量測定現場を訪問。

4 田村市

よりあい処「華」



地元食材を使ったカレーをいただく。

5 三春町

薪商はざるね



薪の加工場訪問。薪割りも体験。

→ 福島駅西口バスターミナル 到着

パトス全開の2日間！
いい勉強させていただきましたm()m



相馬中央病院 内科診療科長
医師、公衆衛生士、リウマチ専門医。
相馬市の仮設健診などの活動を手伝いつつ世界保健機関（WHO）や英国で研修を積んだ後、平成25年11月より相馬中央病院勤務。

地域にかける 想い



ソーラーヴィレッジって こんなところ。

農地に太陽光パネルを設置し発電と農業を同時に実施。

原町区内8カ所で平成27年9月から発電開始。パネル配置に注意し日陰になる農作物の収量が従来の8割以下とならないよう工夫している。

(一社) えこえね南相馬研究機構

(一社) 南相馬除染研究所

福島県南相馬市原町区橋本町1-3-2 西棟1F
電話：0244-26-9494

南相馬除染研究所を設立したのは私の父です。父は40年間産婦人科医師として1万人近くの子どもたちを取り上げ、両親を含め3万人ぐらいの市民と関わりがありました。震災後、何とかこの町を守りたいという思いで、放射線不安解消のため子どもたちの散歩コースなどの放射線量を測定しました。

えこえね南相馬研究機構としてソーラーシェアリングで、地元で活動している人たちと一緒に農業再生を目指してきました。

現状の不安を解消し、安心できる環境を整え、もう一度農業にチャレンジでき、地域がしっかりと再生して、将来の希望に繋がっていくことが大切と思っています。



(一社) 南相馬除染研究所 兼
(一社) えこえね南相馬研究機構 代表理事

高橋 莊平 (たかはし そうへい) さん

地域の皆さまの想いを結集し、都会や他の地域との連携を図りながら推進していきたいと考えています。

地産地消に繋がるように風力、水力、バイオマス、バイオガス、様々な再生エネルギーを学び、実践していく事を目標に活動しています。

震災から復興した町、県として、住んでいる人みんなの自信に繋がっていけたら最高だなと思っています。



参加者の声。
Guest's Voice



事故後、民間として取組んだ除染が、行政にも活かされたことは素晴らしいこと。以前の状態に戻すことに拘らず、地域に新しい価値を見いだしていくことが重要という考えは、私もその通りだと思いました。
(郡山市20代男性)



故郷を捨てず、何とかやっていきたいと取組まれてきた、故郷を愛する気持ちに感動。
(東京都60代男性)



除染モデルがない中、自分たちで考え活動された行政データだけでなく自分たちで線量推移を調べる、自分の住む町だからこそ、自分たちで！という思いを感じた。
(福島市20代男性)



日本の山村にソーラーパネルが広がることを快く思っています。ですが、今回、ソーラーヴィレッジの取組みを見て、使い方や活用方法によっては可能性もあるように思いました。
(千葉県50代女性)



戦略的な見方、行動の早さ、利己的でなく突き進まれたことが素晴らしい。
(喜多方市40代男性)



半農半電の推進モデル地区として、
ソーラーパネルを設置しながら農作物の生産をしている場所を知る

地域にかける
想い



事故以前、有機農業で主に米作りをしていました。福島有機農業ネットワーク構成員でもあります。

事故後2ヶ月で避難先から単身で戻りました。放射能汚染地域となり、被災者捜索もなかなか進まず、農地をみても無念がこみ上げてきました。

放射能と向き合う知恵と農地再生のため有効な手段があるのか、活動仲間の先生と一緒に考えたのが菜種でした。

チエルノブイリでの取組みを応用し南相馬で農地再生の実践に取組みました。

(一社) 南相馬農地再生協議会
福島県南相馬市原町区錦町2丁目67
電話：0244-23-5611



菜種油を使った石鹸
「つながるオモイ」。

平成23年秋から菜種栽培を始めましたが、はじめは苦労し、回を重ねるにつれてある程度上向きになっていきました。

農地が荒廃し農業を離れていく農家が多い中、菜種事業をみて是非応援したいという声も多くなってきました。

平成27年にはイギリスの自然化粧品メーカーから菜種油による石けん作りの申し出があり、500キロの油を出し、日本で限定販売され好評となり、平成28年は4トンを提供することになりました。

一般に流通する油は溶剤を使つて抽出されますが、私たちがこれからも溶剤を使わずに供給していきたいと思えます。

(一社) 南相馬農地再生協議会

杉内 清繁 (すぎうち きよしげ) さん

30年後、そのもっと先。子や孫の代には、かつてよりもさらに活気のある農業がここで復活していることを願い、地域の再生に向けて取組んでいます。

原発事故の風評被害で南相馬の農業は厳しい状況ですが、かつてのように農産物を出荷したいという思いがあります。自信を持って安心・安全なものを作っていることを、全国に伝えていきたいです。



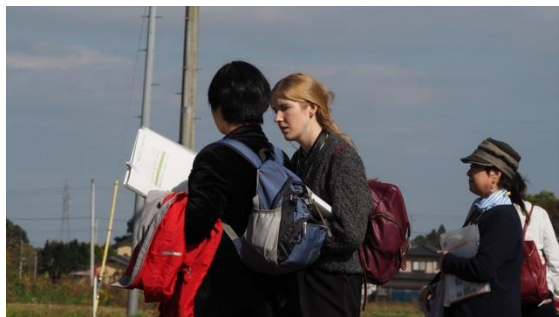
参加者の声。 Guest's Voice



油菜ちゃん（菜種油）を使ったことがあるので、生産者に会えて嬉しかった。日本産の菜種油はあつさりした中にコクがあつてとても美味しいから（千葉県50代女性）



まずやってみることに。それから学んでいくこと。それが広がりにつながる。人とのつながりが生まれていくことに感銘を受けた。菜種油はサラダ油の4倍。どうコストを抑えていくか課題。（福島市50代男性）



土を使う仕事を投げ出さず工夫して続けてらっしゃる。農家の方がベクレルの単位を駆使して説明されることに驚きました。（東京都60代男性）



震災後できなくなったことを乗り越え、新しい商品開発をする、人の底力、みんなが協力して取組めば、いろんなことができるのだ。（郡山市20代男性）



先が見えない状況の中、何とか農地を再生し、農業を復興したいという思いで始めた「菜の花プロジェクト」

地域にかける
想い



双葉屋旅館って
こんなところ。

JR小高駅前にある戦前から続く老舗
の旅館。

南相馬市小高区は、事故直後から全住
民約1万3,000人が避難。

震災から5年4ヶ月経過した平成28年
7月に避難指示が解除され、双葉旅館
も営業を再開。

双葉屋旅館
福島県相馬市小高区東町1-40
電話：0244-32-1618

震災後、母の跡を継いで、
この旅館を再開しました。
名古屋に避難していたんで
すけれど、小高はどうなつて
いるんだろうと福島に戻り、
仮設住宅に入りました。
その後、小高に入れるよう
になつてから、誰もいないと
ころに、でもここは旅館だよ
ねと、毎日片付けに通いまし
た。
片付けに来た時に、人が入
れるんだつたら、ロビーでお
茶飲めるような場所にしたい
なつて。けど誰も来ない。で
もやっぱり誰か来るんじゃない
かなつて。そして駅前にも
花を植えたり。



小高では、多くのボラン
ティアさんが活動しています。
自分たちが助けられている
という思いがあるの、自分
は何ができるか、じゃあそう
いう人たちが来てくれた時に
泊まる施設があつたらいいな
と、旅館を直して。自分たち
で放射線量を測つて「ここは
住めるよね」って自分の中で
納得できたから。
ボランティアで知り合った
二人がいて、結婚して「僕た
ち、ちゃんと分かっているか
らここに住むんだ」と小高で
仕事をしながら今、子育てし
ているんです。

双葉屋旅館

小林 友子 (こばやし ともこ) さん

双葉屋旅館は、小高で元気に営業しています！

こうやって皆さんが来てくれるというのが
すごく幸せなことだなと。

どんなに辛くても、やっぱりいろんな出会いがあつて。
そこからやっぱり自分が幸せだなんて思えば前に進めると。



参加者の声。 Guest's Voice

玄関を掃除して誰か来ないか、と待っていた小林さんの気持ちを知って辛かった。自由意思でなく故郷を離れた思いや苦しみは想像を絶する。
(千葉県50代女性)

震災で失ったものの辛いことがあった中、先に進むことがだけを考えて歩む人が来ると信じ待ち続けた日々、小林さんの思いの強さに感服しました。
(福島市20代男性)

ここに住めるよね、という言葉が重い。
(福島市50代女性)

南相馬の食材を多く使った食事が美味しかった。
(郡山市20代男性)

小高をこのまま終わらせたいいけないと考えた時のことを語ってくださって、非常に感動しました。
(福島市20代女性)

笑顔に出会えて本当に良かったです。小高にまた伺いたいと心から感じました。
(福島市30代女性)



南相馬の食材を使った昼食



お刺身やサラダに「油菜ちゃん」

小高で営業を再開した「谷地魚店」のお刺身など

小林岳紀（たけのり）さんと友子さんご夫妻



地域にかける 想い

南相馬市小高区・住民交流スペース「おだかぶらっとほーむ」



住民交流スペース
「おだかぶらっとほーむ」って
こんなところ。

誰でも気軽に立ち寄れる場所としての住民交流
スペース。

好きな時に来てお茶を飲んだり話をしたり、
区内外の人々の情報を発信できる場所として、
休憩場所、講座、講習会の会場など、様々な
利用されている。

住民交流スペース「おだかぶらっとほーむ」
福島県南相馬市小高区東町1丁目59
電話：0244-26-5856

小高区の自宅周辺は津波で
被災し、鹿島区の仮設住宅に
避難しました。
やりたいことが分からない、
思いついてもやって良いか分
からない。が、「とりあえず
やってみよう」と仮設住宅で
ビニールハウスを建て農園を
造りました。
小高に戻れるようになって、
休んだり、誰でも気軽に立ち
寄れる住民交流スペース「お
だかぶらっとほーむ」を始め
ました。



小高では、1,000人が
暮らし始めています。今住ん
でいる人たちが新しいコミュニ
ティを少しずつ作っている
ば、これから人が増えていっ
て、すごくいい町になると思
っています。
ここを訪れた皆さんがプ
ラス1となつて、小高を応援し
てくれるとうれしいです。



小高を応援する会 3B + PLUS1 代表
廣畑 裕子 (ひろはた ゆうこ) さん

+ PLUS1は

小高を訪れて頂いた皆さま方だと思います。

自分のできることを、まずはやってみる。

ただ、できることをやってみる。

ただ、できる範囲で歩み、動き出そう。

参加者の声。

5年後の家族構成の話、
我が事のように問題を感じ
ることができました。
(栃木県60代男性)



13,000人が1,000
0人になった、というより
0人が1,000人になっ
たという言葉に、これから
の希望を感じた。
(福島市50代女性)



減った人口をどうするかで
はなく、人口を増やすため
にどうすれば良いか、私達
でもできることを協力して
いきたい。
(福島市20代男性)

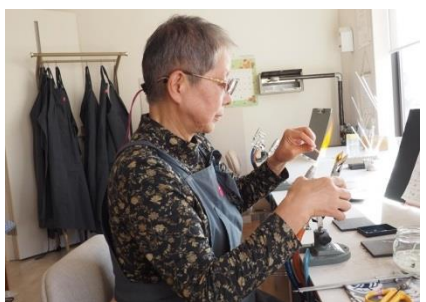
小高区散策



小高を復興するための協働の拠点
「小高復興デザインセンター」



小高で営業を再開した「谷地魚店」
谷地（やち） 茂一さん



地域の雇用創出を目指しオープンした
「HARIOランプワークファクトリー小高」



「おだかぶらっとほーむ」にて



共同復興推進支援センターって こんなところ。

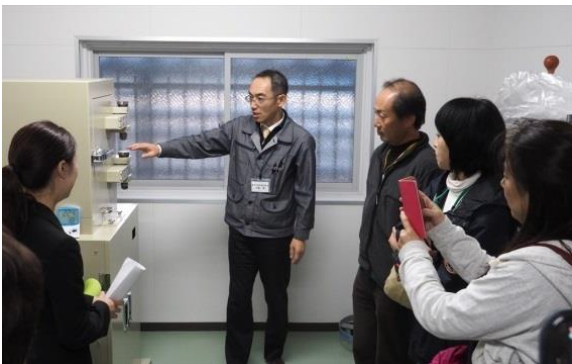
川内村と長崎大学、原子力安全研究協会の三者で、放射能調査や住民の研修などを目的に、村内民家を利用し開設。

放射性物質測定、原発事故による健康影響や防護の研究、放射線被ばく健康相談などを実施。

川内村・長崎大学・原子力安全研究協会
共同復興推進支援センター
福島県双葉郡川内村大字下川内字坂シ内223
電話：0240-38-2512

平成24年5月から公民館に測定器を導入し、スタッフが常駐しています。住民が作った野菜、採ってきた山菜やきのこなどを持ち込めば、いつでも放射性物質が測れます。その結果と「数字の意味」を住民に説明することで、日々の生活で持つ疑問や不安に対応することが出来ます。住民から「実際に自分たちが住んでいる土壌や食べ物の数値がわかれば、安心していただきます。」と言っていただけではない。

測定結果から、野菜、果物から事故由来の放射性セシウム、放射性物質はほとんど検出されていません。山菜やきのこ類などの検出されやすさは、種類や採れた場所によって違ってきます。例えばウドは、100ベクレルを超えているものは、ほとんど検出されている一方、こしあぶらは、放射性セシウムが出やすい山菜です。



長崎大学

折田 真紀子（おりた まきこ）さん

川内村は、震災以降、着実に復興のための取組みを進めてきた村だと感じています。

今年収穫されたそばの実を測りましたが、事故由来の放射性物質は検出されなかったという結果が得られています。

ぜひ川内村の美味しいお蕎麦を食べて頂けたらと思っています。

あそこに行けば、何でも測
ってもらえるよねという安
心感。「自分たちは見捨て
られていない」と思える。
科学的に支えてもらうこと
は、本当に心強いと思いま
す。

(福島市30代女性)

足の悪い方のところには、
農産物を取りに伺うという
ことまで対応を考えている
事には感心しました。

(栃木県60代男性)

検査の検体数が減っている
と聞いた。これまでの検査
結果で何が安全で何が
安全でないかという知識が
住民に根付いてきているか
らではないか。

(千葉県50代女性)

川内村の新そばを使ったそば打ち体験



川内村の味覚「イワナの塩焼き」



川内村役場 農政係

遠藤 一美 (えんどう かつみ) **さん**

**私はおいしい農産物を作ってくださる農家の皆さんを
全力で応援します。**

これから村としては、新たな若い担い手の確保、今元気で頑張っている
農家の皆さんをどう応援していくかが課題です。

新たな農業への取組みとしては、柿やリンゴの栽培、東京オリンピック
に向けて、川内からワインを出荷しよう！とワイン用のブドウ栽培
なども地方創生としてやっています。



地域にかける
想い



グリーンパーク都路
福島県田村市都路町岩井沢字北向185-1
電話：0247-67-3002

森林組合では40人ほどが働いていますが、50から60才の方が中心です。50キロくらいの木を人力でまくったり手でひっぱったり。今はだいぶ機械化も進みましたが広葉樹は人力がメイン。だから若い人には辛く、組合に入ってこないのかな。

原木の基準値は50ベクレル／キロ。ここではおがくずが1,000、3,000ベクレルくらい。原木、おがくずは出荷できないので、現状出荷しているのは紙パルプ用のチップのみ。放射能が半分に減衰していてもあと30年かかる。



今やれることをやっていか
なければと「福島森林再生事
業」でグリーンパーク周辺で
実験的に山の表土を剥いだり
色々やっています。

放射性物質は減るんですが
山の栄養、微生物なども取っ
てしまう。水の吸収が悪くな
って、土砂の流出がすごかつ
たこともあり、災害が心配に
なったり。課題はたくさんあ
ります。

ふくしま中央森林組合

渡辺 和雄 (わたなべ かずお) さん



生まれも育ちも都路です。
ずっと都路の山を見てきました。
この辺のことはだいたい知っています。

広葉樹に関しては、20～25年で更新していく必要がある所以、現在も補植しています。自分自身あと2回くらい木を切る機会はあるかもしれませんね（笑）。

参加者の声。 Guest's Voice



この機会がなければ、木のことを考えることも、林業の深刻な状況も知らずにいました。林業のこれからことは社会みんなで考えなくてはいいけない課題だと思いました。(福島市30代女性)



自分たちが今できること。いつ誰が何をやるかなど。計画を持って取組んでいることに驚き、手探りの状態から、人をつなぎ、解決方法の一つ一つ作っている感じがしました。(福島市50代男性)



都路って こんなところ。

田村市都路町は、面積の約80%を森林が占め、農業と共に林業が生計を支える基盤として大きな役割を果たしてきた。広葉樹であるコナラやクヌギなどシイタケ原木を全国に供給していたが、原発事故の影響を受けてその供給はストップしている。



地域にかける
想い



ふくしま中央森林組合って
こんなところ。

森林所有者が協力して林業の発展を目指す組合で、都路事業所では、里山を経済的に使うサイクルを取り戻すため広葉樹をバイオマス発電の燃料として検討中です。

ふくしま中央森林組合 都路事業所
福島県田村市都路町大字古道字戸田平112番1
電話：0247-75-2013

ここでは原木の傾向を見る
目的で測定を行い、商品とし
て出荷するための精密な検査
ではありません。
原木の放射線量は、丸太の
ままでは測れないので、「お
がくず」を測っています。
木一本一本、上下、太い・
細いで全部違うので、一部
を測って800ベクレルだっ
たとしても、木全体が均一な
状態ではなく、データの取り
方がとても難しいのです。

現在、シイタケ原木として
使うことができないので、建
築用、燃料や繊維、鉄に代わ
る素材としての利用など、技
術的にはもうできている部分
を普及していければと考えて
います。
我々だけでできることでは
ないので、皆さんのお力を
借りできればと思っています。



ふくしま中央森林組合 都路事業所

会田 明生（あいた あきお）さん

**人が山に入っていけないと、都路のきれいな
景観にもつながっていきません。**

データを取りながら、切っては育てというこれまでの
サイクルをなんとか繋いでいきたいと思います。
いつ元の森林の姿に戻るかということ、日々悩みな
がらやっています。





森林の課題と向き合って、
検証結果が出るのにも時
間がかかり、測定にも、
試行錯誤しながら努力さ
れている姿には胸を打つ
ものがありました。
(福島市20代男性)

震災以前からも後継者不
足はあったかと思いま
すが、震災で林業、特に
木の被害は林業の衰退に
拍車をかけている事に危
機感を覚えた。
(福島市50代女性)

森林を資源として活かす
ことは、自然災害から人
々を守ることにつながる。
(千葉県50代女性)



事故後「何を信じたらい
いのかわからない」先が
見えないという状況にあ
っても「それでも木を植
えないと、30年後に何
もなくなってしまうから
」と当然のように未来を
向いてる言葉が、心に残
りました。
(福島市30代女性)



地域にかける
想い



よりあい処「華」って
こんなところ。

今泉富代さんのご実家である築100年以上の古民家を再生したスペース。
ランチや手芸教室、お茶飲み場などの交流の場として、地域のよりあい処として利用されている。

福島県田村市都路町古道字新町67

電話：080-8203-8787

★ランチ月・水・金曜日/午前11時～午後2時

★手芸教室 月曜日/午前9時～正午

都路の避難指示が解除されて、孫が通う小学校の再開に合わせて、家族で自宅に戻りました。
都路へ戻った人が孤立しないように、集まれる場所が必要だと思って、ボランティアさんたちの力も借りて、平成26年6月にこのよりあい処「華」をオープンさせました。
子どもとお母さんたちが元気なら町がにぎやかになると思います、地域のばあちゃんたちと子どもたちとともに、農業体験、繭だんごや団子刺しの郷土料理作りなどを通じて交流しています。



よりあい処「華」

今泉 富代 (いまいずみ ひさよ) さん

大人も子どもも

気軽に来られるような家にしたいと思っています。

ほっとして帰ってもらえたら、うれしいです。そして都路に帰ってきて良かったなという思いになってくれたら。

気長に待っています。

参加者の声。
Guest's Voice

故郷に戻り生活を再建している方たちを、これからも末永く応援できるようにしていければと思う。
(福島市50代女性)



今泉さんのような「人好き」の方が一人いらつしやるだけで地域がずいぶん明るく楽しくなるのだということがわかりました。この連鎖反応で、他にも自分の得意分野を活かして活動する人が出てくると良いと思いました。
(栃木県60代男性)



交流の場を作られたことは、避難によって断ち切られてしまったコミュニティの再生にもつながり、重要な役割だと思った。手作りルーのカレーが美味しかった。
(郡山市20代男性)



地域にかける
想い



薪商「はぜるね」って
こんなところ。

昭和62年からシイタケの原木、平成17年から薪を販売。

冷涼な気候に育まれた阿武隈山系のナラは太すぎず細すぎず薪として利用するのに最適の木材。

この地のナラ材は、シイタケの原木として国内シェアの5割を占めていたが、震災以降原木使用が難しくなり、屋号を薪商はぜるねとして、薪の販売をメインに行っている。

薪商「はぜるね」
福島県田村郡三春町大字込木字大志田79-1
TEL：0247-73-8364

昨年までは、薪の材料を全て県外から仕入れていました。現在は、小野町をメインに薪を切つて、県外と県内の薪を組み合わせて、薪として販売出来る指標値1キ口あたり40バケレルを下回るようにし、説明して納得していただけるお客様に販売しています。

仕入れごとに現地または福島で放射性物質検査を行ない、測定結果報告書を随時ホームページで公表するなどしています。

里山は人の手が入らないと廃れてしまいます。これから阿武隈山系の豊かな資源を守るため、そして次の世代に繋げていくことを考えていきます。



薪商「はぜるね」代表取締役

武田 剛（たけだ つよし）さん

福島で培った経験を精一杯活かし

厳選した薪を皆さんにお届けしてまいります。

参加者の声。 Guest's Voice

福島県の山林は広葉樹も多
くきれいだといつも感じて
いた。手入れが良くされて
いたのは広葉樹が原木用と
して高価値があったからだ
と思う。原木・ほだ木の出
荷がままならない今は、他
の活用方法も考えながら森
林を守る工夫が必要。
(千葉県50代女性)

武田さんの科学的な行動力
に感心しました。
(喜多方40代男性)

原木の有効活用は、阿武隈
山系の林業再生にもつなが
る重要な活動だと思いまし
た。
(福島市50男性)

決して楽な道ではないと思
いますが、近隣の林業とう
まく連携を図り、安定した
供給をしていただけたらう
れしいと思います。
(千葉県50女性)



薪割り体験



薪ストーブ体験





体験プログラム

食の安全対策と ふくしまの美味しいものさがし

▶ 実施日：平成28年11月20日（土）

▶ 参加者：27名+ナビゲーター・開沼博さん



行程



福島駅西口バスターミナル 出発→

1

農業総合センター果樹研究所



放射性物質低減の技術開発などについて伺う。



2

あんざい果樹園



りんご葉つみ体験後、地元食材を使った昼食をいただく。

3

J A ふくしま未来 ここら吾妻店



放射性物質検査の取り組みについて伺う。

4

ささき牛乳



牧場を見学し、牧草や放射性物質検査などについて伺う。



福島駅西口バスターミナル 到着

「ふくしまみちさがしツアー」で丸一日、福島への食の安全対策と美味しいものを探しました。



ナビゲーター
立命館大学 准教授
開沼 博 さん

社会学者

立命館大学衣笠総合研究機構准教授（平成28年～）

福島大学客員研究員（平成28年～）ほか、様々な機関の委員等に任じられる。

著書に「はじめての福島学」「福島第一原発廃炉図鑑」などがあり、震災後の福島について現状をもとにわかりやすく伝えている。

いわき市出身。



福島県 農業総合センター 果樹研究所って こんなところ。

栽培科と病害虫科で、栽培管理技術の確立や省力・低コスト・高い生産性技術、福島県オリジナル新品種、病害虫防除技術開発を進める。

福島県 農業総合センター 果樹研究所
福島市飯坂町平野檀の東1
電話：024-542-4191

事故後、果樹除染の研修会を10回ぐらいいやり、1'500台くらいの軽トラックが来ました。生産者が、必死に原発事故による困難を克服しようとしていることを感じました。

樹体洗浄は、収穫後、葉が落ちた冬の寒い時期に、高圧水で洗って除染し、放射線量は確実に下がりました。

生産者が、冬場の寒い中、作業をやったおかげで、次の年はさらに線量を低く抑えられました。

果実を分析したら、基準値100ベクレルは確実に下回り、検出しても3ベクレル。十分問題ない数字かと思っ



福島県 農業総合センター 果樹研究所

安部 充 (あべ みつる) さん

**果樹研究所では「福島で良い果樹を作るために」
という考え方のもと、所員一同動いています。**

福島県の果樹は、その品質の良さや生産量・種類の豊富さから「果樹王国ふくしま」として全国に知られています。

近年、担い手の減少や高齢化、樹園地の老朽化、消費志向の変化など、果樹を取り巻く情勢が変化中、放射性物質による汚染、風評など福島県の果樹は甚大な被害を被りました。

果樹産地の再生と振興のため、技術対策の構築と新技術の開発に取り組んでいます。



参加者の声。
Guest's Voice

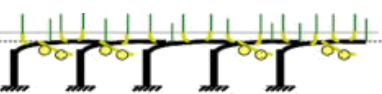


福島にしながら、福島の果樹のことを良く知らなかった。害虫問題などある中、原発事故で放射能問題も加わり、果物一つ育てるのにも大変手間がかかることが学べました。(福島市20代男性)

真冬に除染作業をされた福島県の生産者さんたちの真剣な姿勢や、そこに至るまでの研究所の方々の苦労を知ることができ、皆さんに敬意を表したいと思いました。(福島市30代女性)



農業、害虫、様々な対策の中で、放射線はごく一部にすぎないことが伝わればいいと思います。(相馬市40代女性)



ジョイント栽培等の革新的な栽培技術

果樹作りのメカニズムをきちんと理解していることが、放射線の問題、風評被害の問題を考えるうえで必要不可欠であること。地道で長い時間をかける果樹作りの技術を蓄積し、発展させていくことの大切さを改めて感じました。(福島市20代男性)



果樹研究所のほ場の面積は993アール。
東京ドームの約2個分の広さ。
モモが全体の約1/4を占めている。

地域にかける
想い



事故後、除染は幹の皮を剥がして、高圧ポンプで枝葉とか全部洗浄しました。桃も梨も全部やりましたね。

最初から測定結果を出した方がいいのではないかと、検査機関に持ち込んで有料で測ってもらって24ベクレル。24ベクレルの桃ですって段ボールに書いて直売所に置いたんです。それでもよかったです。買ってくださーいという風に。

次の年もそのくらい出たら、もうここでは果物は作れないと思ったんですけれど、一気に下がりました。今は1ベクレル未満ですが、測定は続けます。

震災前から人手が足りなかったんですけれど、風評被害というか、結構心配ではあります。徐々に理解して、また買いに来てくれる人もいます。

これから、若い人が一生懸命やっているところを見に行きたいですね。

あんざい果樹園って
こんなところ。

およそ100年果樹農家を営む。広大な敷地に桃や梨、リンゴなど季節の果物を栽培。米ぬかや有機肥料で育てた桃は糖度が高くリピーターも多い。

家族で器ギャラリーやカフェ、ピザ窯体験を開くなど、自称“コンテンポラリー農家”として活動を展開。



あんざい果樹園
福島県福島市町庭坂字原ノ内14
電話：024-591-1064

あんざい果樹園
安齋 一壽 (あんざい かつじゅ) **さん**



震災で打撃は受けましたが、その反面今まで知り合いになれないような人達と仲良くなれました。これからもたくさんの人達と交流を深めていきたいと思います。

今まで通りいろんな人に助けてもらいながら、人生楽しみながら果物作りをやっていければと思います。長野と札幌で頑張る息子達に負けないよう、新しい「あんざい果樹園」として頑張りたい。

参加者の声。 Guest's Voice

安齋さんの人柄は、震災後に人のつながりが重要なポイントになったときにとっても強みになったのではないかと感じました。
(福島市30代女性)

一人でやっているという聞いて、継承についてどうにかならないものかと考えました。つながること大切にしていて、誰かが手を貸してくれる。震災後につながったご縁の話を聞けて良かった。
(田村市40代女性)

測定結果を表示して販売しているエピソードが印象に残った。オープンにすることで消費者の信頼を得た事例は、放射線の問題を考えるうえで大変参考になる。
(東京都40代男性)

震災以降の苦労は計り知れないですが、それを乗り越えていこうとする姿勢に、福島の希望を見た気がします。
(田村市20代女性)



断固として、果樹栽培にこだわる姿勢に感動！
(東京都60代男性)

料理研究家・中村美紀さん特製ランチ



福島の食材や調味料、あんざい果樹園のリンゴを使用

あんざい果樹園・安齋一壽さん、料理研究家・中村美紀さん、立命館大学准教授・開沼博さんで福島県産の農産物についてくるまざトーク。



地域にかける
想い



JAふくしま未来 ここら って
こんなところ。

地元農家の野菜や果物を販売。手作りの漬物、ジュースなどの加工品なども人気。店内にはベーカリーショップ「ここらばん」や軽食コーナー「ここら亭」があり、地場産にこだわった蕎麦などが食べられる。

JAふくしま未来農産物直売所 ここら 吾妻店
福島県福島市在庭坂字薬師田1-1
電話：024-592-1088
営業時間：9:00～17:00（季節により営業時間異なる）

土壌や農産物の測定、吸収抑制対策、情報提供といったお客様の対策・検査を経て販売しています。

モニタリング検査では、全品目・全戸を対象として安全性を確認。野菜・果物関係では出荷制限品目はありません。山菜など地域によってまだ出荷制限されている品目は、より精密に検査をしてから出荷しています。

事故前から、栽培方法や農薬使用回数などを記入した栽培日誌を農家から提出いただくなど常に安全を心がけています。



JAふくしま未来 直販課

佐藤 賢一（さとう けんいち）さん



JAふくしま未来の商品には、
様々な思いが詰まった物語があるんです。

JAふくしま未来のオリジナル開発商品に「桃の涙」というリキュールがあります。震災の年、福島の桃の値段があまりに安く農家さんは涙が出るくらい大変だったということで、その時に作ったお酒です。

参加者の声。

Guest's Voice



震災から6年が経った現在でも、商品に含まれる放射性物質について不安の声が寄せられるという事で、今後も正しい知識で安全のアピールをしていく必要性を感じました。
(郡山市20代男性)



ここまで徹底して検査していることで県外の人どころか県民も多くは知らないのではないかと思います。検査に携わる方の苦労と、食品の安全性が広く知れ渡って欲しいです。
(福島市30代男性)



六次化や地元の食材を使ったパンなど、地元を盛り上げようとしている姿に、自分も頑張らなきゃと思いました。
(田村市20代女性)



風評被害が根強く残る中、福島県の美味しい食べ物を広く消費者に届けたいという努力、熱意に感銘を受けた。
(千葉県50代男性)



安全のための取組みを詳しく聞けて、買う側として安心感を持てた。
(福島市30代男性)

ここら吾妻店

フルーツライン沿いにある店舗。贈答用の果物や加工品が豊富に揃い、また軽食コーナーが併設していることから観光客が多く訪れている。



地域にかける
想い



ささき牛乳って
こんなところ。

小さな牧場で飼われているホルスタインから搾った牛乳だけで生産。自ら搾った牛乳を直接お客さんに届けている。

全ての行程に関わり、責任を持って生産される牛乳が「ささき牛乳」の経営スタイル。

有限会社ささき牛乳
福島県福島市佐原字入左原50-1
電話：024-593-2811

事故の翌年から牧草地を除草し、肥料を撒いて、トラクターで耕す。作業を繰り返して、土地を元に戻す。収穫したものは、畑で育てる。計測して、問題なければ、与える。良いということがある。今、北海道と自分のところでは、牧草と雑草を混ぜて与えています。牧草が問題ない状況で、ぼぼ使える環境に戻ってきています。牛乳は、問題ない工法を与えて、月1回の検査を続けています。「検出せず」という状態がずっと続いています。



事故から6年。元と変わらない姿になりつつも、測り続けることが必要だと思っています。自分のところの牛乳を使つたソフトクリーム屋を始めまして、大分良い感じに來てます。そこで、戻ることを期待しています（笑）。

ささき牛乳

佐々木 光洋 (ささき みつひろ) さん



牛は私のパートナーです。牛がいるから私たちは食べていける。牛も守られて生きていける。

震災の時、数日停電になり、機械での搾乳が出来なくなりました。通常、機械での搾乳は1時間程度で終わるのですが、手による搾乳は、6時間程度かかりました。その時、牛たちに「共に困難を乗り越えよう」と一生懸命声をかけていたのを覚えています。

牧草も牛たちに食べさせても安全になってきました。

しかし検査は今しばらく必要だと思います。

このように牛や牛乳のことをもっと皆さんに知ってもらえればと思っています。

牛乳を捨てていた時期のことを思うと言葉をなくしますが、検査も慣れまじたと笑われていることに強さを感じました。
(福島市30代女性)



震災前から自分の農場の製品、牛乳に付加価値を付けようとする、創意工夫を続けてこられた努力が、震災を経ても人々に愛されている源であると確信できた。
(千葉県50代男性)



以前の状態に戻りつつあるとのことですが、出荷の際には検査が付きまとうという佐々木さんのお話を聞き、原発事故の被害を完全に拭き去ることのできない現状について改めて考えさせられました。牛乳、ソフトクリームが美味しく、もっと多くの人に知って欲しいと思いました。
(郡山市20代男性)

牧場見学



できたての牛乳を試飲



本来の風味を届けるため63℃で30分殺菌の「低温保持殺菌法*」で加工

* 一般的な牛乳は120℃で2～3秒程度の高温殺菌牛乳

ささき牛乳では、春～秋にかけて牧場見学会を開催している牛の大きさ、毛の質感、子牛の愛くるしさ、ぜひ見て、さわって、体感してみたい



Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal green lines.



Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal green lines.

